

S
A
I
T
A
M
A
H
A
L
L

創設
1926

1926-御成婚記念埼玉會館
1966-埼玉會館



埼玉會館

History and Architecture



埼玉会館の概要

■沿革

埼玉会館は大正15年(1926年)に創設されました。昭和4年(1929年)に開館した日比谷公会堂よりも早く建設され、日本の公共ホールの先駆けとなりました。

「御成婚記念埼玉會館」と名付けられたこの会館は、昭和41年(1966年)に建て替えられ、「埼玉会館」として現在に至ります。

「御成婚記念埼玉會館」の設計は日本初の公会堂といわれる大塚市中央公会堂(通称:中之島公会堂 大正7年(1918年)重要文化財)を手がけた岡田信一郎。そして、その歴史を引き継ぎ現在に至る「埼玉会館」は、ル・コルビュジエに学び日本の近代建築をリードした前川國男の設計によるものです。

「大正、昭和、平成」と3つの時代を通し、常に文化の中核拠点として歩んできた埼玉会館も創設から約90年。その歩みは日本の公共ホールの歴史でもあります。



御成婚記念埼玉會館



埼玉会館



大ホール



御成婚記念埼玉會館

大正15年(1926年)の創設に際し、冠された「御成婚記念」という名称は、摂政裕仁親王(昭和天皇)の御成婚を記念して、會館が建設された経緯が示されたものです。

大正12年(1923年)に計画された會館建設は、同年に起きた関東大震災の復興を優先させるため、延期を余儀なくされましたが、渋沢栄一翁が中心となった會館建設への寄附により、大正14年(1925年)に着工にこぎつけます。そして、約1年の工期を経て大正15年(1926年)11月6日に竣工します。

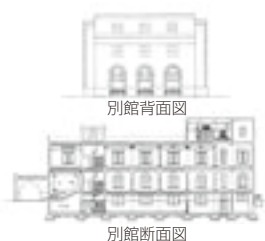
当時、このような公共集会施設は全国でも珍しく、東日本では日本青年館(1925年)に次ぎ、日比谷公会堂(1929年)よりも早い開館でした。

■ 建築の特徴

大阪市中央公会堂や歌舞伎座などを手がけた岡田信一郎の設計は非常に斬新なものでした。ホールには日本では初めてではないかと言われるドイツのパイロイト歌劇場で用いられた様式が試みられました。文化の殿堂を希求し斬新な建築を受け入れた当時の人々の意識の高さがうかがえます。



- 建物構造 ■ 鉄筋コンクリート造、本館・平屋一部2階、別館3階
- 本館 ■ 大集会室(1500人収容)
- 別館 ■ 地階：球戯室、囲碁室、食堂、売店
- 1階：事務室、貸会議室
- 2階：貴賓室、休憩室、集会室
- 3階：日本間、日本庭園





■ 外観と女神像

建物は本館(平屋一部2階)と別館(地下1階、地上3階)の2棟からなり、西洋建築様式をとり入れた外観は、現在からみるとクラシカルな趣があります。一方、関東大震災と同程度の地震にも耐えるよう耐震・耐火にも万全が期されていました。

本館の屋上には女神の裸像を配した高塔があり、周囲の標識ともなったと言われていますが、女神像はあまりにも斬新過ぎたのか、撤去の声があがり取り外されます。紆余曲折を経て、現在は埼玉県立歴史と民俗の博物館の中庭に静かに佇んでいます。



外観



女神像

■ 銘板

入口には、会館建設に力を尽くした渋沢栄一翁の手による館名が書かれた青銅の銘板が掲げられました。銘板には館名をはさんで鳳凰が一对配され、空間部を唐草文で埋めています。重厚な印象を与えるこの銘板も埼玉県立歴史と民俗の博物館に保管されています。



銘板

■ 大集会室等

本館大集会室(ホール)の客席は後方に至るほど広がり傾斜を設けるなど、どのような席からでも等しく視聴ができるよう工夫がこらされていました。別館には事務室などが配置され、地下には食堂や売店、娯楽室なども設置されました。



大集会室

設計者 ■ 岡田 信一郎

1883年(明治16年)～1932年(昭和7年) 東京生まれ。東京帝国大学工学部建築学科卒業。和洋を問わず様式設計に定評があり、大正から昭和初めにかけて活躍した建築家。

建築家としてまた早稲田大学教授としても著名であっただけでなく、当時の埼玉県知事齋藤守圀の友人という関係でもあった。こうしたことなどから御成婚記念埼玉會館の設計が依頼された。

主な作品・1918年(大正 7年) 大阪市中央公会堂(重要文化財)
1924年(大正13年) 旭山一郎邸(現旭山会館)、歌舞伎座
1934年(昭和 9年) 明治生命館(重要文化財) など



埼玉会館

大きな時代の変化を経てきた会館も老朽化が進み、昭和30年頃から建て替えを望む声が上がってきました。そうした声を受け、埼玉会館の歴史を継ぐにふさわしい建て替えを目指し、著名な設計事務所による設計との方針が打ち出されます。その方針のもと、モダニズム建築の旗手として日本の建築界をリードする前川國男に設計が委託されます。

昭和38年(1963年)12月に建て替え工事を開始。昭和41年(1966年)4月18日に竣工し、5月27日、新生埼玉会館が開館します。

新設された会館では、貸し館業務だけでなく新たに自主事業を展開していきます。音響の良さで定評のある大ホールは、当初からオーケストラ公演が頻繁に行われてきました。

開設当初の様子などは、埼玉会館でコンサートシーンが撮られた映画「砂の器」〈原作:松本清張 監督:野村芳太郎 昭和49年(1974年)〉で垣間見ることができます。

■ 建築の特徴

前川建築の特徴を色濃く残し、人の流れをゆったりと包み込むように造られた新埼玉会館。煉瓦を独特な工法で敷き詰めたエスプラナード、黄褐色の打ち込みタイルで覆われた外壁が特徴的なモダンな建物になっています。



全景

- 建物構造 ■ 鉄骨・鉄筋コンクリート造 地下3階、地上7階、塔屋
- 大ホール ■ 1,514人収容(現在は1,315人)
- 小ホール ■ 504人収容
- 地下3階 ■ 駐車場、機械室、中央監視室、楽屋
- 地下2階 ■ 展示室、大ホール、楽屋
- 地下1階 ■ 警備室、郷土資料展示室(現在は情報コーナー)、会館事務室
- 1階 ■ 小ホール、食堂、ホールホワイエ
- 2階 ■ 応接室(現在はラウンジ)、特別食堂
- 3~7階 ■ 集会室



配置図



断面図



ホワイエ

■ 外観

東側に大ホール、西側に小ホールと会議棟を配し、その間に色彩感のあるタイルを独特の工法で敷き詰めたエスプラナードを巡らせています。

建物の外壁は、前川建築の特徴である打ち込みタイル工法により黄褐色のタイルで覆われ、自然の焼きムラがあるタイルと打ち放しコンクリートとが絶妙な対比をなしています。



外観



タイル

■ エスプラナード

高低差のある土地の形状にあわせて造られた二段のエスプラナードは、建物の60%を地下に潜らせることによって生み出されました。このエスプラナードは憩いの場として、また、散策の場として人の流れをゆったりと受け入れ、市街地における公共文化施設の新しい在り方を提示した設計となっています。

また、緻密かつ繊細な手書きの設計書から生み出されたエスプラナードのタイル模様は、建物の上から見ると美しく花が咲いたような様相を見せてくれます。



二段の高低差



エスプラナード

■ ホール

木のホールとして音質の良さに定評のある大ホールは、音響家が選ぶ「優良ホール100選」にも選ばれています。内装仕上げの全てに難燃合板材を用い仕上げた壁は、天井面と一体となっている現在では非常に珍しい構造です。



大ホール

設計者 ■ 前川 國男

1905年(明治38年)～1986年(昭和61年) 新潟県生まれ。東京帝国大学工学部建築学科卒業。日本近代建築の動向に戦前・戦後を通じて大きな足跡を残した建築家。埼玉会館建設当時、前川國男は「会館としてこれほど理想的なものを設計したことは過去になかった」と語ったといわれている。

主な作品・1961年(昭和36年) 東京文化会館、国立国会図書館
 1975年(昭和50年) 東京都美術館
 1979年(昭和54年) 国立西洋美術館新館



交通のご案内

電車 JR浦和駅西口下車徒歩約6分

車 国道17号・県庁前交差点から浦和駅方面へ約230m左側
※駐車台数に限りがございますのでご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。



公益財団法人 埼玉県芸術文化振興財団

埼玉会館

〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4
TEL.048-829-2471(代) FAX.048-829-2477
URL <http://www.saf.or.jp/>